

## 2021年室内環境学会学術大会 学生懇談会実施報告

石田真穂<sup>1)</sup>, 大森果菜<sup>1)</sup>, 小松純奈<sup>1)</sup>, 山口夏純<sup>1)</sup>, 平野雅人<sup>2)</sup>, 藤江智暉<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>静岡県立大学 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

<sup>2)</sup>大阪大学 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-1

### Report on the 13th practice of student meeting held in annual meeting on Society of Indoor Environment, Japan 2021

Maho ISHIDA<sup>1)</sup>, Kana OMORI<sup>1)</sup>, Ayana KOMATSU<sup>1)</sup>, Kasumi YAMAGUCHI<sup>1)</sup>,

Masato HIRANO<sup>2)</sup>, Tomoki FUJIE<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>University of Shizuoka, 52-1 Yada, Suruga-ku, Shizuoka-shi, Shizuoka 422-8526, Japan

<sup>2)</sup>Osaka University, 2-1 Yamadaoka, Suita-shi, Osaka 565-0871, Japan

**Key words:** 学生懇談会(Student Meeting), 交流(Interaction), ディスカッション(Discussion)

#### 1. はじめに

本学会における学生懇談会は今年で13回目を迎えました。学生懇談会は、本学会の学生活動をより盛んにすることを目的とし、学会に参加する学生同士の親睦や情報交換の場として活動しています。学生懇談会は2009年に第一回が行われてから毎年開催され、大学や専攻・学年の垣根をこえて交流が行われています。今回の第13回の学生懇談会では18名の参加し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとったうえで、昨年度と同様に対面で行いました。本報告書では当日の進行と記録を、学生世話人が参加者を代表してご報告致します。

#### 2. 実施概要

日時：2021年12月2日（木）13：30～15：00

場所：京都リサーチパーク C会場 4号館2F ルーム2

テーマ：コロナ禍における室内での楽しみ方

学生世話人：

石田真穂（学生会員，静岡県立大学）

大森果菜（学生会員，静岡県立大学）

小松純奈（学生会員，静岡県立大学）

山口夏純（学生会員，静岡県立大学）

平野雅人（学生会員，大阪大学）

藤江智暉（学生会員，大阪大学）

プログラム：

- 1) 開催趣旨説明
- 2) 参加者の自己紹介
- 3) グループディスカッション
- 4) まとめ

参加者：静岡県立大学（6名）、大阪大学（5名）、東海大学（4名）、東京工業大学（2名）、横浜国立大学（1名）計18名

#### 3. 実施内容

##### 3.1 開催趣旨説明

世界的に拡大する新型コロナウイルス感染症は、私たちの私生活や研究環境に多大な影響を及ぼし、多くの変化をもたらしたと思います。先行きの見えない中で不安を抱えながら過ごしてきた日々も続きましたが、このような状況に適応するために、コロナ禍において生活様式の変化がありました。特に学生にとって学生生活は限られた時間であり、いかに充実させるかを思いめぐらせ、学生ならではの楽しみ方も見出したり、新たな挑戦をしたりした人も少なくはないと思います。

また、本学会では「室内環境」について研究を行っている学生が集まるものの、換気設備から室内の快適性、機器分析の評価など、詳細な研究分野は多岐

にわたるため、お互いの研究について興味を持つきっかけにしてもらいたいと思い、同じ学生同士でざくばらんに質問できる機会となるテーマを選ぶことにしました。そこで、今年の学生懇親会では、「室内での楽しみ方」に着目し、新たな生活様式の楽しみ方や工夫したことなどを、同世代の学生間で共有し、今後の「withコロナ」へのより幅広い選択肢になることを目的としました。

### 3.2 参加者の自己紹介

学生懇談会は参加者の自己紹介から始まりました。所属大学と学年、氏名、アルバイト、研究内容について全体で発表しました。多くの学会がオンラインで開催されていたこともあり、このような対面での懇親会は初めての経験の参加者もいましたが、自己紹介の時間が過ぎていくにつれ、各自の緊張もほぐれ、和やかな雰囲気になりました。また、中

には翌日に控えた研究についての紹介をする参加者もいて、様々な研究分野について興味を持つきっかけにつながったように思います。

アルバイト経験については、学習塾の先生からテーマパークのスタッフなど、普段聞くことのできないような話も聞くことができました。また、コロナ禍ではアルバイト事情にも変化があり、どのように乗り越えてきたかといった学生ならではの学生生活事情についても楽しく情報共有ができました。

### 3.3 グループディスカッション

今回の学生懇談会では、より多くの他の大学の学生同士が交流できるように、4つのグループに分かれて行いました。

まずはアイスブレイクとして、自身の研究内容をグループ内でプレゼンをしました。同じ学生同士ということもあり、非常に質問をしやすい雰囲気



写真1 自己紹介の様子



写真2 グループディスカッションの様子

聞いたことのない分析方法などをわかりやすく説明してもらうこともできました。学会の研究発表では難しく話についていけなくなることもありますが、他分野の基礎知識を学ぶことができ、翌日の研究発表へのモチベーションにもなったように思います。

続いて、今回のテーマである「コロナ禍における室内での楽しみ方」について意見を出し合いました。学部生から博士後期課程の学生が参加しており、コロナ前後の研究生活の変化を感じた参加者もいれば、コロナ禍で研究を始める参加者もいて、それぞれで違った研究への不自由さを感じていました。一方で、オンライン上での作業や会議が慣れてきたからこそ、自宅からリモートで解析を行ったり、通学時間が減ったりしたことで、新たに活用できる時間が増えたと感じた学生も数多くいました。そういった時間を活用して、資格取得のための勉強を行ったり、ダイエットに挑戦したり、オンライン上でゲームをして交流を図ったりと、同世代の学生が様々な楽しみ方や時間の活用の仕方を知ることができました。

#### 4. まとめ

今回の学会も、昨年度と同様、新型コロナウイルスの影響でハイブリッドの開催でしたが、多くの学生の皆様にご参加いただきました。

同世代の学生が集まり、気軽に対面で会話できる貴重な機会となりました。特に、研究内容の紹介では、同じ室内環境分野の研究をしているものの、その中でも様々な分野の研究があり、お互いに非常に良い刺激にもなりました。コロナウイルス感染予防による自粛により、他大学の学生との交流がなかなかできなかった学生にとって、大変有意義な時間を過ごすことができたと感じています。今後もこの活動が引き継がれ、参加者の皆様にとって価値のある会になることを期待しています。



写真3 学生懇談会 集合写真